

スーパーマーケット景気動向調査

2022年8月調査結果（7月実績）
（2022年8月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

8月調査（7月実績）結果概況

景気判断DI 現状・見通しともに大幅改善

7月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から +5.7 の 42.4、見通し判断は前月から +4.6 の 37.7 となり、現状判断、見通し判断とも前月から大幅な改善をみせた。

経営動向調査では、感染の再拡大による家庭内食事需要回復や、高い気温による夏物商材の好調、前年より祝日は減ったものの日曜日が一回多い曜日巡りにより、売上高 DI、収益 DI とともに前月から大きく上昇、マイナス幅を縮小した。生鮮品仕入原価 DI、原料価格等の高騰による食品仕入原価 DI により、販売価格 DI が引き続き高止まりするなか、食品需要の高まりにより、客単価 DI も上昇している。来客数 DI は、回復傾向がみられたものの、猛暑により日中の来店が減少した影響を受けている。

カテゴリー動向調査では、前年が緊急事態宣言下であり、自宅でのオリンピック・パラリンピック観戦需要があったため、比較すると大きなプラスとはなっていないが、すべてのカテゴリーDI で前月と比べて上昇した。家飲み需要の回復や、猛暑で調理を敬遠する傾向が追い風となった惣菜の DI は 12.2 と最もプラス幅が大きくなっている。(カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載)

前月、軒並み過去最低水準を記録した景況感調査も、すべての DI が前月より改善しており、消費者購買意欲現状判断 DI は、大幅な改善をみせた。(長期傾向については P11 参照)

ここ数か月、相次ぐ食品値上げと、外出・外食の再開気運により厳しい状況が続いていたが、7月は一転して感染の再拡大に伴う外食の抑制や食品備蓄の動きなど、内食需要の大幅な回復がみられた。外部環境により販売動向が大きな影響を受ける状況である。行動制限が行われない中で感染者数の増減による消費者心理の変化も一様ではなく、店舗の立地や地域によって食品需要にも違いが生じる可能性が高い。本来はきめ細かな対応が求められるところだが、店舗では陽性者や濃厚接触者が続発し、出勤できる従業員の不足が続いており、営業継続で精一杯という感もある。従業員への手厚いケアが求められよう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：42.4 (+5.7)
前月：36.7

消費者購買意欲DI
当月：44.0 (+7.1)
前月：36.9

周辺地域 競合状況DI
当月：42.9 (+1.8)
前月：41.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：43.5 (+3.6)
前月：39.9

見通し判断

景気判断DI
当月：37.7 (+4.6)
前月：33.1

消費者購買意欲DI
当月：40.5 (+5.9)
前月：34.6

周辺地域 競合状況DI
当月：39.6 (+0.1)
前月：39.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.2 (+3.9)
前月：37.3

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-2.4 (+12.6)
前月：-15.0

客単価DI
当月：10.3 (+5.8)
前月：4.5

来客数DI
当月：-13.5 (+5.5)
前月：-19.0

収益DI
当月：-4.0 (+8.1)
前月：-12.1

販売価格DI
当月：19.6 (-0.2)
前月：19.8

生鮮品仕入原価DI
当月：19.9 (+2.0)
前月：17.9

食品仕入原価DI
当月：21.6 (+3.1)
前月：18.5

カテゴリー動向

青果DI
当月：-2.5 (+13.2)
前月：-15.7

水産DI
当月：-19.2 (+4.5)
前月：-23.7

畜産DI
当月：-3.6 (+11.5)
前月：-15.1

惣菜DI
当月：12.2 (+9.7)
前月：2.5

日配DI
当月：3.0 (+15.4)
前月：-12.4

一般食品DI
当月：-6.1 (+10.5)
前月：-16.6

非食品DI
当月：-3.5 (+8.3)
前月：-11.8

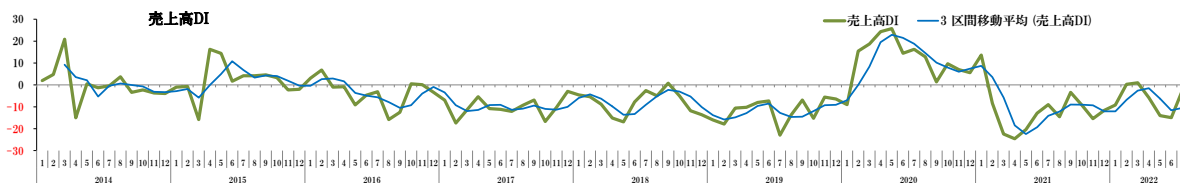
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月より大幅に改善するも、4か月連続マイナス

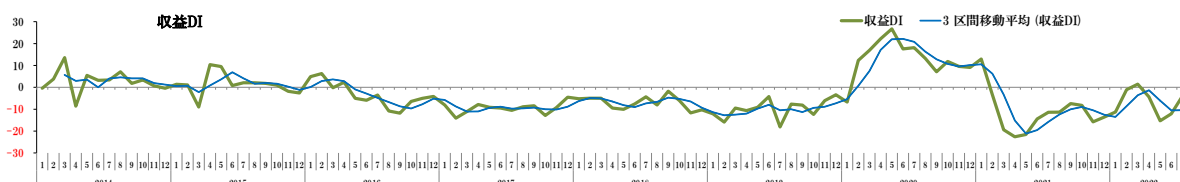
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	15.4	45.1	25.8	11.5	2.2	-15.0
売上高 (当月)	7.1	29.7	31.6	29.0	2.6	-2.4



2. 収益DI

前月より大幅に改善するも、4か月連続マイナス

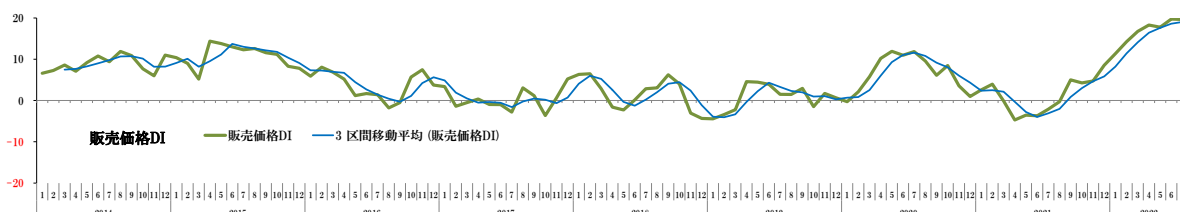
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	9.4	47.8	28.3	10.6	3.9	-12.1
収益 (当月)	9.9	30.5	29.8	25.2	4.6	-4.0



3. 販売価格DI

前月と変わらず、調査開始以来の最高水準で推移

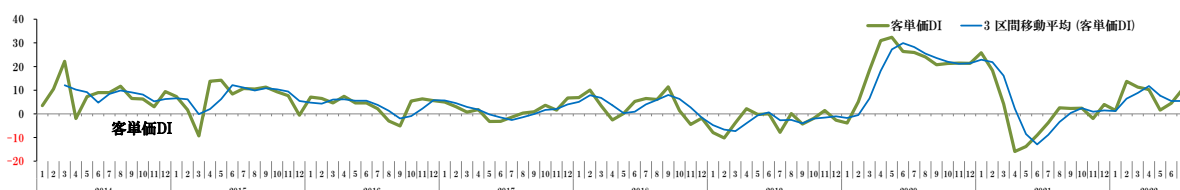
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.2	23.2	68.0	6.6	19.8
販売価格 (当月)	0.0	1.9	24.7	66.2	7.1	19.6



4. 客単価DI

前月よりプラス幅を拡大

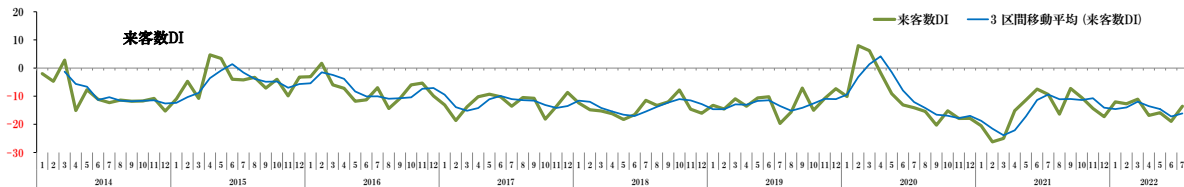
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	21.3	38.8	36.1	2.7	4.5
客単価 (当月)	0.0	13.5	35.5	47.1	3.9	10.3



5. 来客数 DI

前月より改善するも、マイナス圏での推移が続く

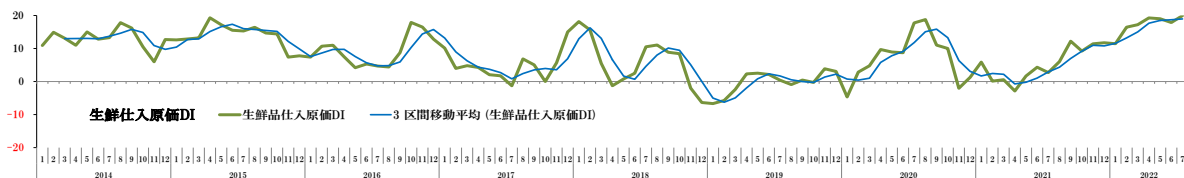
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	14.8	55.5	20.9	8.2	0.5	-19.0
来客数 (当月)	12.9	45.2	26.5	14.2	1.3	-13.5



6. 生鮮仕入原価 DI

前月より小幅に上昇し、二桁プラス圏で高止まり

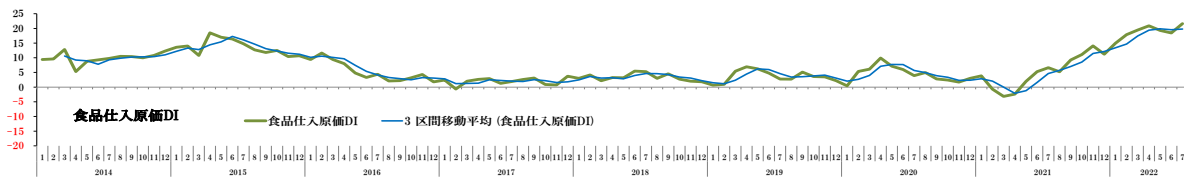
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.7	8.0	21.7	54.3	14.3	17.9
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	4.7	23.6	56.1	14.9	19.9



7. 食品仕入原価 DI

前月よりさらに上昇、16 か月連続でプラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	4.0	5.7	17.6	58.0	14.8	18.5
食品仕入原価 (当月)	2.0	4.0	16.1	61.1	16.8	21.6

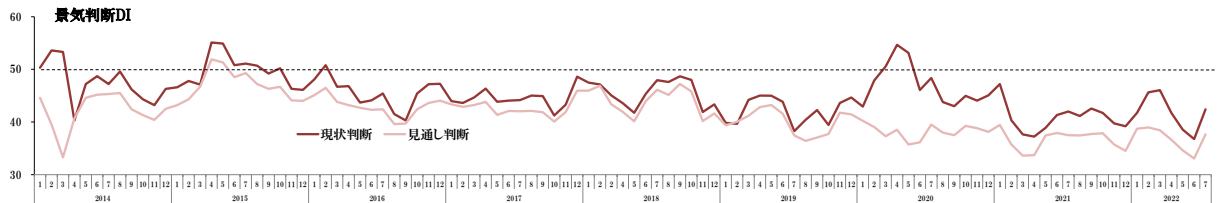


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に4か月ぶりに改善

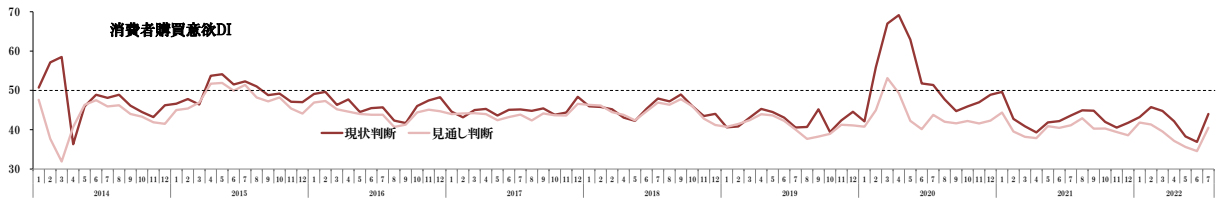
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	5.5	46.4	43.7	4.4	0.0	36.7
【現状】景況判断 (当月)	3.2	34.8	51.3	10.8	0.0	42.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	10.4	49.7	37.2	2.7	0.0	33.1
【見通し】景況判断 (当月)	5.1	44.9	44.3	5.7	0.0	37.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に大幅な改善

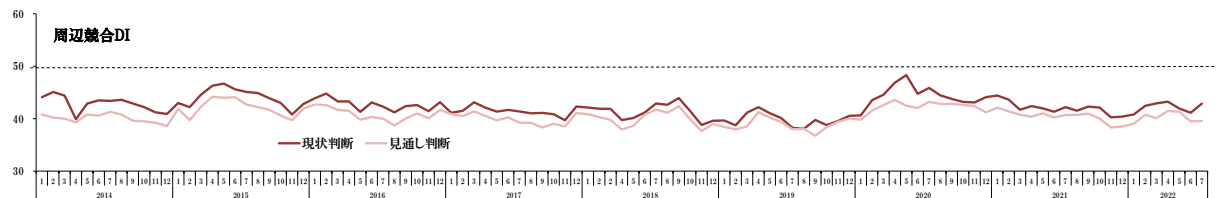
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.7	51.4	41.5	4.4	0.0	36.9
【現状】購買意欲 (当月)	1.9	32.3	54.4	10.8	0.6	44.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.9	55.2	36.6	3.3	0.0	34.6
【見通し】購買意欲 (当月)	1.9	42.4	48.1	7.0	0.6	40.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅な改善も、見通し判断は横ばい

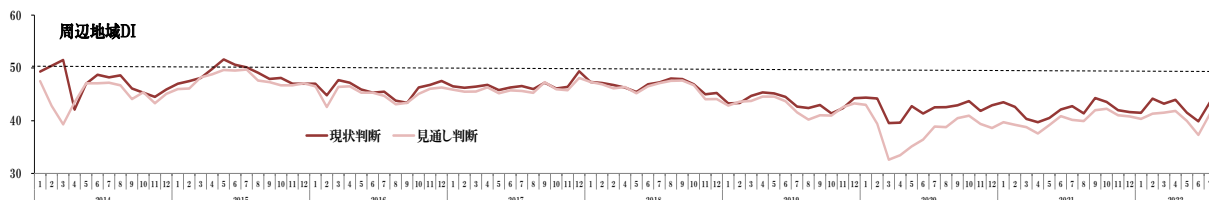
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.8	30.1	63.9	2.2	0.0	41.1
【現状】競合状況 (当月)	3.8	24.1	69.0	3.2	0.0	42.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.0	30.6	62.8	0.5	0.0	39.5
【見通し】競合状況 (当月)	5.1	31.6	63.8	0.0	0.0	39.6



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に大幅な改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.6	39.9	55.7	2.7	0.0	39.9
【現状】地域景気 (当月)	1.3	28.0	66.2	4.5	0.0	43.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	3.8	44.8	49.7	1.6	0.0	37.3
【見通し】地域景気 (当月)	1.9	33.8	61.8	2.5	0.0	41.2

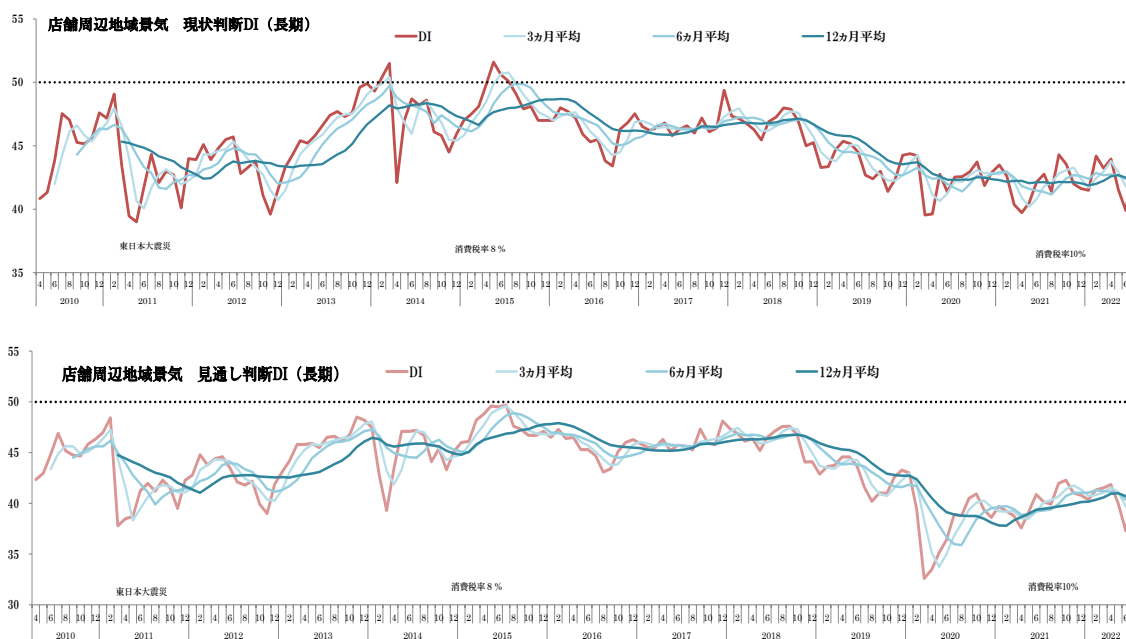


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

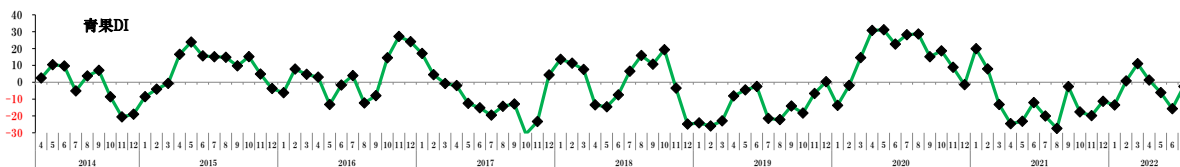
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化したものの、感染が再拡大した7月には大幅な改善をみせた。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-2.5（やや不調）

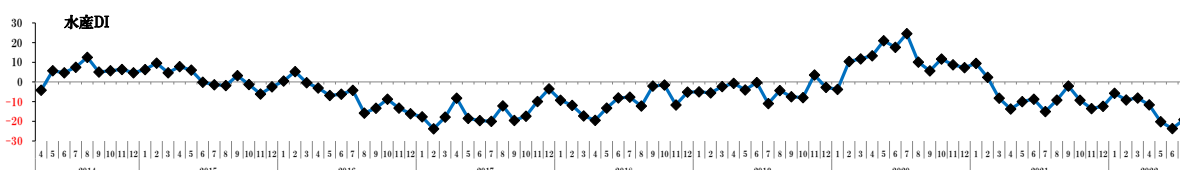
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	15.1	49.4	20.9	12.2	2.3	-15.7
青果 (当月)	8.0	31.3	27.3	29.3	4.0	-2.5



今年は販売数量が安定したタマネギは引き続き高値で好調に推移、一方高騰が続いていたじゃがいもなどの土物類には落ち着きがみられはじめた。キャベツやレタスなどの葉物類は相場安で伸び悩んだものの、サラダ関連野菜のキュウリやトマト、オクラや生姜など涼味野菜が気温上昇により好調に推移した。家飲み需要の回復により枝豆も好調となった。果物類はカットフルーツが好調に推移、国産果物では涼感のあるスイカや桃の動きがよかった。輸入果実は価格高騰の影響で不振となった。

2. 水産DI：-19.2（不調）

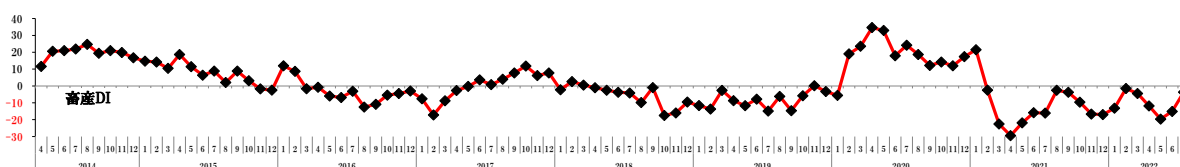
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	28.7	46.6	16.7	6.9	1.1	-23.7
水産 (当月)	21.3	45.3	23.3	8.7	1.3	-19.2



燃料費の高騰や不安定な仕入れ状況、サーモンなど輸入魚価格の上昇が続くなか、販売に苦心する状況が続く。比較的価格の安定している冷凍魚や冷凍加工品は食品を備蓄する動きも背景に好調に推移した。刺身類は気温上昇の影響で持ち帰りを敬遠され伸び悩んだ。今年は土曜日となった土用の丑のうなぎの販売は、気温上昇から好調に推移した店舗がある一方で、相場高騰や競合により苦戦した店舗もみられた。塩干類も値上げが続き点数減、アサリ産地偽装問題の影響もあり貝類は厳しい状況が続いている。

3. 畜産DI：-3.6（やや不調）

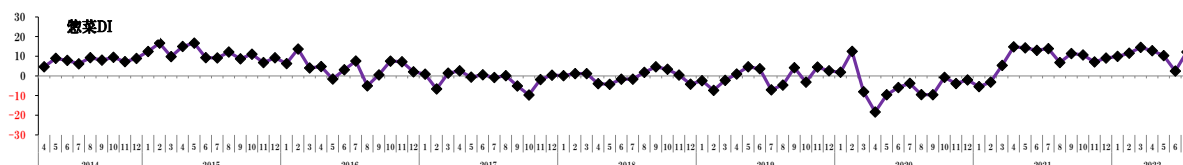
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	17.4	41.3	27.9	11.0	2.3	-15.1
畜産 (当月)	9.3	32.5	26.5	27.2	4.6	-3.6



相場高騰が続くなかで、日曜日が一日多い曜日巡りの恩恵や、感染再拡大による食品備蓄の動きにより、前月よりやや回復傾向がみられた。牛肉は、気温上昇により国産牛を中心に焼肉用が比較的好調も、輸入牛は価格高騰により不振となっている。豚肉価格も高騰しているが、冷しゃぶなど涼味提案で動きがよかった。比較的価格の安定している鶏肉に需要がシフトしているとのコメントがみられ、好調に推移した店舗が多い。ハムなどの加工肉は備蓄需要回復も、値上げの影響で伸び悩んだ。価格高騰が利益を圧迫しているとの指摘もみられた。

4. 惣菜DI：12.2（好調）

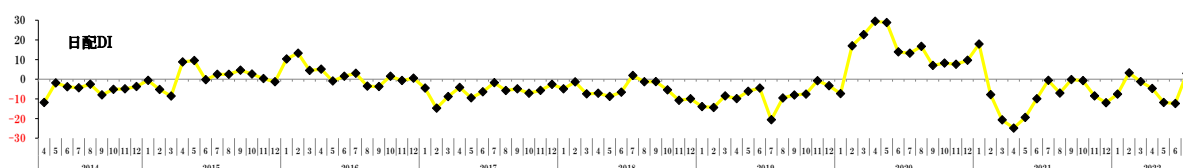
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.2	23.7	32.4	33.5	5.2	2.5
惣菜（当月）	4.1	12.2	27.0	44.6	12.2	12.2



調理油の値上げや、猛暑で家庭での調理を避ける傾向が強まり、天ぷら、唐揚げやコロケなどの揚げ物類、中華惣菜を中心に好調となった。土用の丑は予約販売が好調。気温上昇により、涼味商材が好調に推移した一方で、持ち帰りを敬遠して寿司類が伸び悩んだ。行楽需要が回復する一方、感染再拡大によるイベント中止の影響を受けた店舗もみられた。家飲み需要も回復がみられたが、オリンピック観戦需要が高まった前年には及ばなかった。原材料や資材の値上げが相次ぎ、メニューや量目の変更で対応する状況が続いている。

5. 日配DI：3.0（やや好調）

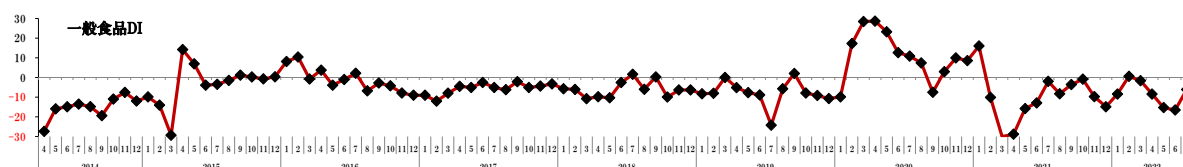
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	10.3	46.0	28.7	12.6	2.3	-12.4
日配（当月）	3.3	27.2	29.8	33.8	6.0	3.0



気温上昇によりアイスやチルド飲料をはじめ、チルド麺類、豆腐やこんにやく等の水物など、涼味商材が好調となった。なかでも乳酸菌飲料の動きがよいとのコメントがみられた。報道で感染に備えての食品備蓄が呼びかけられたことを背景に冷凍食品が一段の伸長。値上げのあったパン類も一品単価が上昇し引き続き好調に推移した。キムチなどの発酵食品、チーズやバターなどの乳製品、機能性ヨーグルトには引き続き前年からの反動減がみられた。

6. 一般食品：-6.1（やや不調）

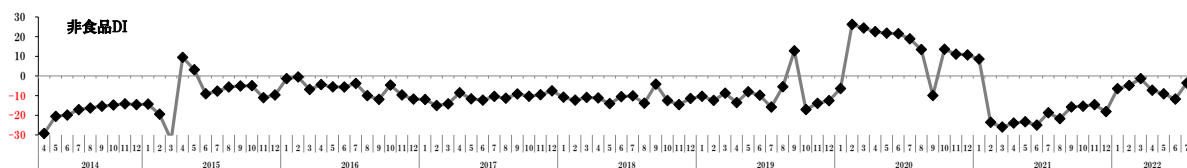
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	18.3	44.0	25.1	10.9	1.7	-16.6
一般食品（当月）	8.6	35.1	31.8	21.2	3.3	-6.1



高い気温で推移した地域では、飲料や素麺関連などの涼味商材が好調に推移した。特に猛暑にみまわれた期間には熱中症対策商品、スポーツドリンクで欠品が発生した店舗もみられた。全般的に値上げが続いているものの、食品備蓄の動きが再び強まり、乾麺やレトルト食品など保存性の高い商品が好調。米類は相場安が続くが、買上点数は伸びず不調が続いている。値上げのあった油や調味料にも回復がみられた。家飲み需要の高まりがみられ、酒類や珍味などのつまみ類はオリンピック観戦需要のあった前年並みとなった。ドラッグストア等との価格競争激化や、販促が打ちにくいなど相次ぐ値上げの影響を指摘するコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-3.5（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	17.6	34.1	30.0	14.1	4.1	-11.8
非食品（当月）	10.1	31.8	30.4	17.6	10.1	-3.5



感染再拡大傾向により、マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品が好調に推移した。殺虫剤や日焼け止めなど夏物商品、紙コップや割り箸などの行楽、アウトドア関連も好調に推移した店舗が多かった。猛暑の影響で洗濯洗剤や入浴用品の需要が伸びている。在宅時間の増加による影響もあってか、ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品の販売が回復したとのコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2022年8月調査（7月実績）キーワード TOP3

1. 気温上昇による夏物商材好調
2. 感染再拡大による巣ごもり需要の回復
3. 相次ぐ値上げ

（参考）2021年8月調査（7月実績）キーワード TOP3

1. 気温の上昇による季節商材好調と調理敬遠
2. 青果相場安、畜産相場高
3. 前年からの反動とオリンピック観戦需要

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

7月実績速報版 154社
 6月実績確報版 179社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp